滞留水の貯蔵状況（2月12日時点）

東京電力ホールディングス株式会社

2026年2月26日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
②1～4号機タンク貯蔵量
・淡水化装置による処理により，RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
・蒸発濃縮装置は全台停止中
③5，6号機滞留水貯蔵量
・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり
④廃棄物発生量
・除染装置停止中のため，廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約930 m³	－（水抜き完了）
2号機	約1,190 m³	－（水抜き完了）
3号機	約1,270 m³	－（水抜き完了）
4号機	約10 m³	－（水抜き完了）
合 計	約3,400 m³	

（合計）±20[m3/4週]　（合計）±30[m3/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約9,550 m³	T.P.935
高温焼却炉建屋	約1,800 m³	T.P.-759
合 計	約11,350 m³	

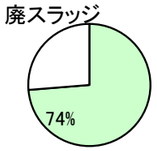
（合計）-60[m3/4週]　（合計）-480[m3/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	643 m³	1,200 m³
SPT(A)	407 m³	3,100 m³
SPT(B)	780 m³	3,100 m³
1号CST	622 m³	1,600 m³
2号CST	1,898 m³	2,200 m³
3号CST	1,672 m³	2,200 m³
バッファタンク	431 m³	700 m³

（合計）-166[m3/4週]（合計）+51[m3/週]

④廃棄物発生量

廃スラッジ



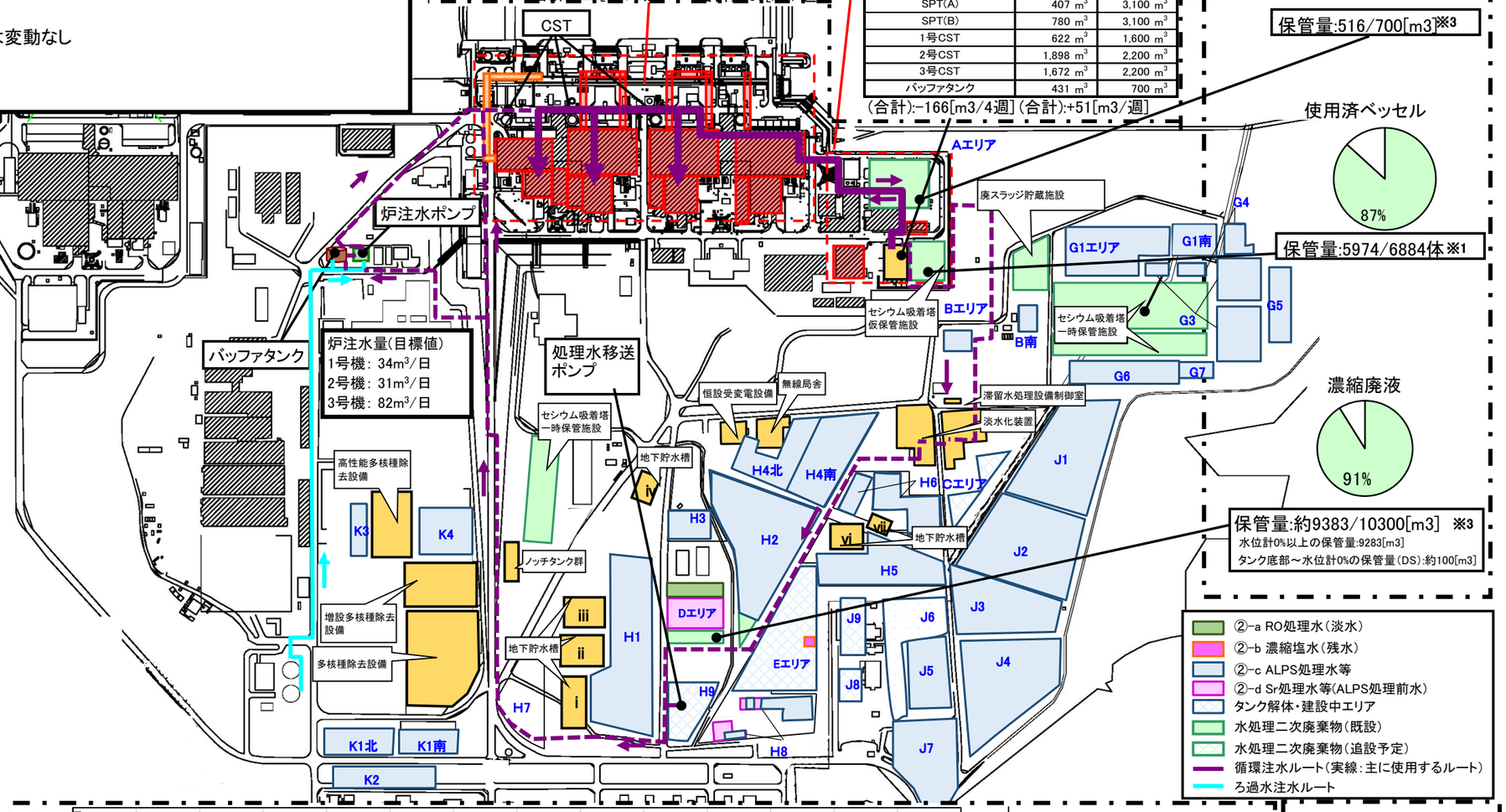
保管量:516/700[m3]※3

使用済ベッセル

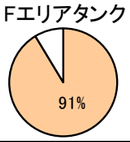
保管量:5974/6884体※1

濃縮廃液

保管量:約9383/10300[m3]　※3
水位計0%以上の保管量:9283[m3]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m3]



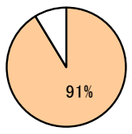
Fエリアタンク



水量:約7674/8400[m3]　※2,3
-285[m3/4週]/±0[m3/4週]
-260[m3/週]/±0[m3/週]

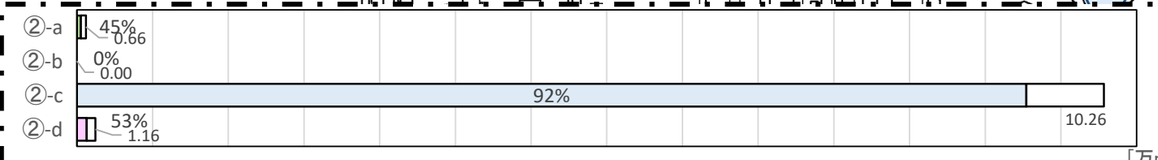
③5，6号機タンク貯蔵量

タンク総容量



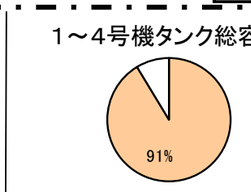
水量:約1280232/1401700[m3]※2,3
+1164[m3/4週]/±0[m3/4週]
+680[m3/週]/±0[m3/週]

タンク貯蔵量合計（②＋③）



②1～4号機タンク貯蔵量

②-a RO処理水（淡水）	②-b 濃縮塩水（残水）	②-c ALPS処理水等	②-d Sr処理水等（ALPS処理前水）	1～4号機タンク総容量
水量:約5420/12000[m3] ※2,3	水量:約0/0[m3] ※2,3	水量:約1254297/1356900[m3] ※2,3,4,6 ※7	水量:約12841/24400[m3] ※2,3 ※7	水量:約1272558/1393300[m3] ※2,3,4
水位計0%以上の水量:5320[m3]	水位計0%以上の水量:約0[m3]	水位計0%以上の水量:1251897[m3]	水位計0%以上の水量:12641[m3]	水位計0%以上の水量:1269858[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約0[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2400[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約200[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2700[m3]
-217[m3/4週]/±0[m3/4週] +281[m3/週]/±0[m3/週]	±0[m3/4週]/±0[m3/4週] ±0[m3/週]/±0[m3/週]	+285[m3/4週]/±0[m3/4週] +338[m3/週]/±0[m3/週]	+1381[m3/4週]/±0[m3/4週] +321[m3/週]/±0[m3/週]	+1449[m3/4週]/±0[m3/4週] +940[m3/週]/±0[m3/週]



水量:約1293761[m3]　※5
+1243[m3/4週]
+541[m3/週]

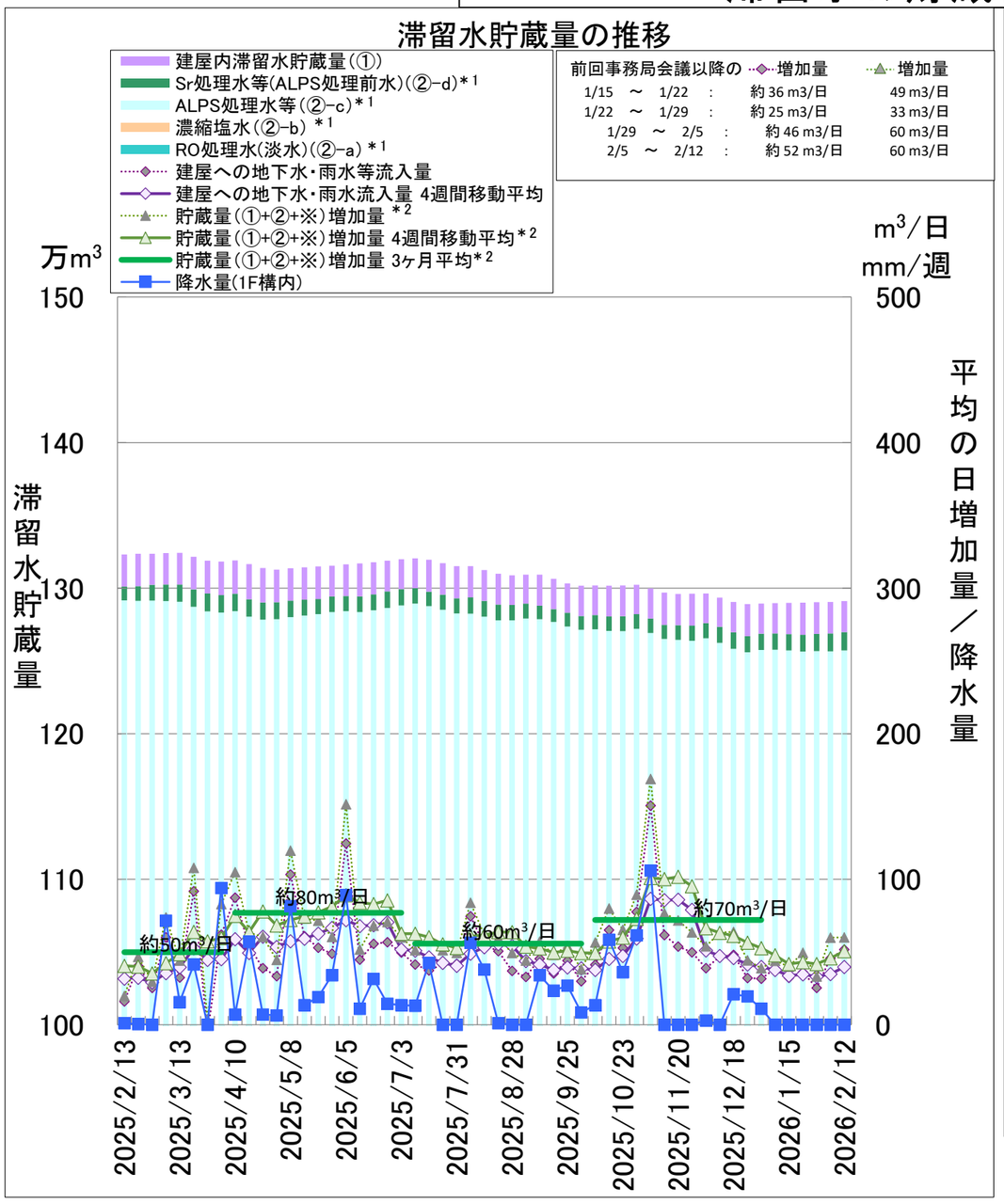
建屋内貯蔵量
＋
1～4号機タンク貯蔵量
（①＋②）

※1　第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセル含む
※2　装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い
※3　貯蔵容量は運用上の上限を示す（タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある）
※4　多核種除去設備等（ホット試験中）の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5　ウェルポイント・地下水ドレン(約30m³/週)、その他移送量(約20m³/週)の合計約50m³を含む
(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6　放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7　フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める

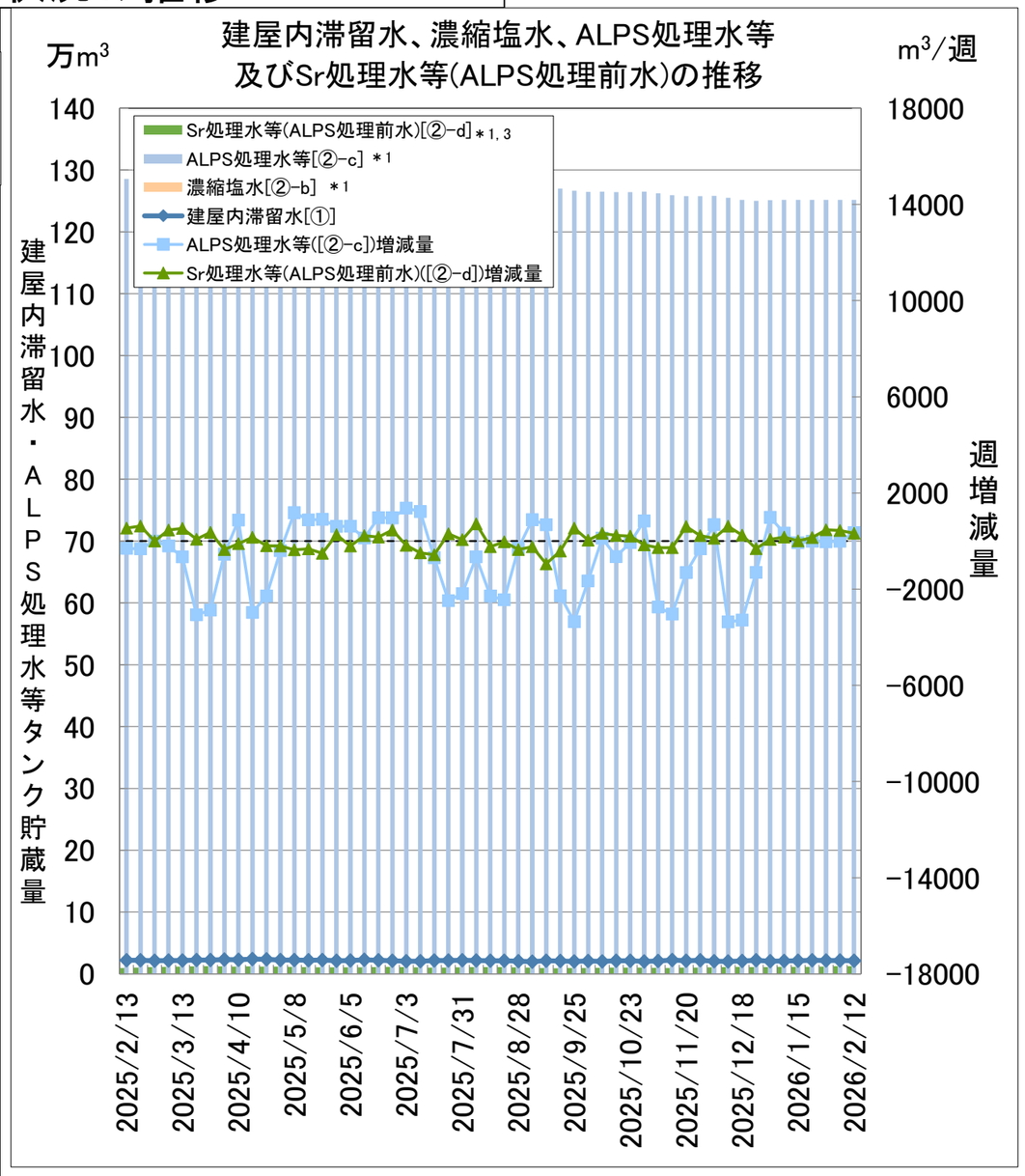
東京電力ホールディングス株式会社
2026年2月26日

滞留水の貯蔵状況の推移

滞留水貯蔵量の推移



建屋内滞留水、濃縮塩水、ALPS処理水等及びSr処理水等(ALPS処理前水)の推移



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク）
②：1～4号機タンク貯蔵量（[②-aRO処理水(淡水)]＋[②-b濃縮塩水]＋[②-cALPS処理水等]＋[②-dSr処理水等(ALPS処理前水)]）
※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

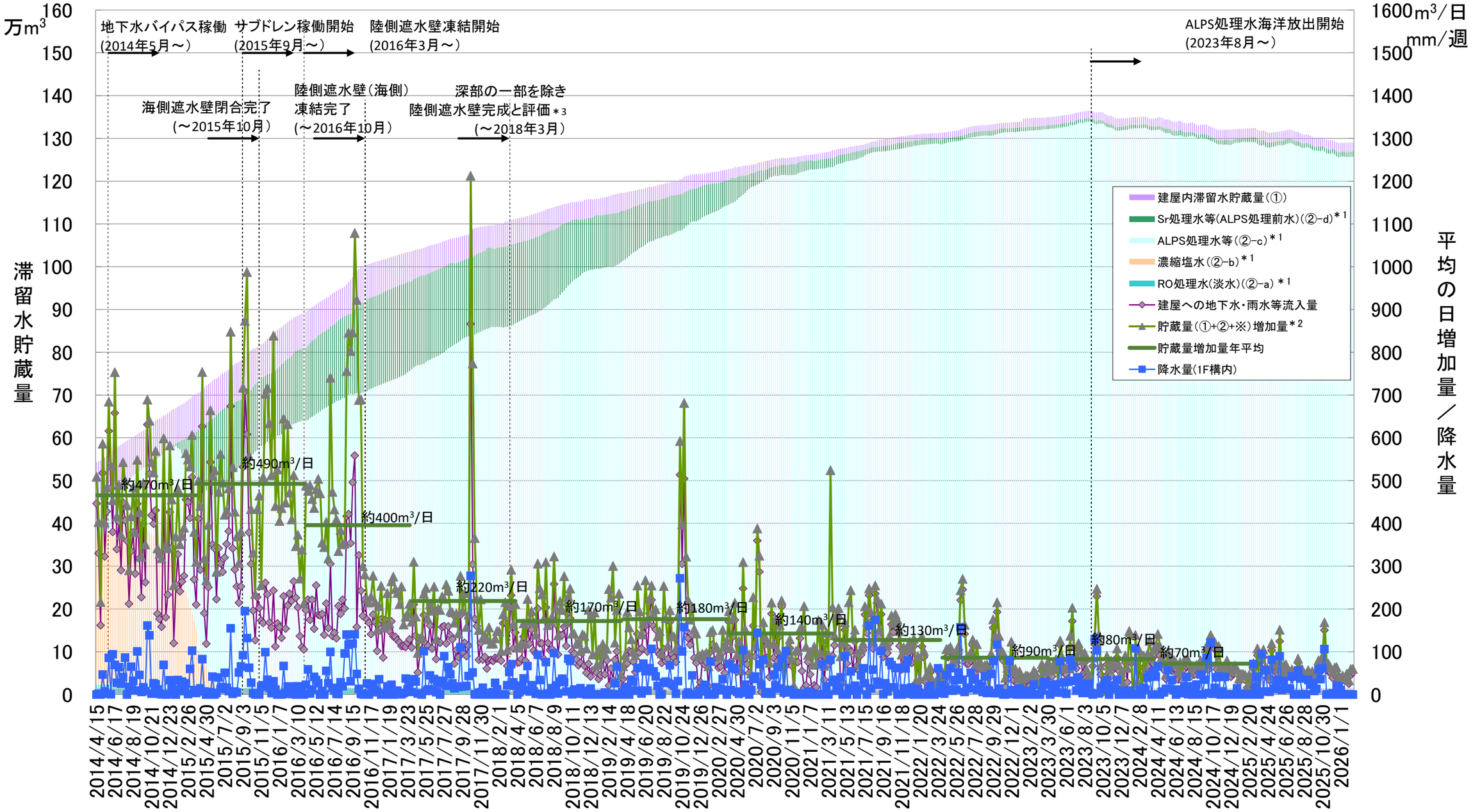
＊1：水位計0%以上の水量
＊2：汚染水発生量の算出方法で算出 ［（建屋への地下水・雨水等流入量）+（その他移送量）+（ALPS薬液注入量）］、ALPS処理水の放出量は加味していない
＊3：多核種除去設備のクロスフローフィルタの詰まり等に伴う設備稼働状況によりSr処理水等の処理量が増減

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水[注1,4]		定格処理量
	[m3/週][注2]	[m3/4週]	[m3/日]
既設多核種除去設備	305	454	750以上
増設多核種除去設備	0	0	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	400以上
高性能　検証試験装置	0	0	50
合計	305	454	

注1）処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2）処理量305 m3の内訳はRO濃縮塩水処理量 0m3、Sr処理水処理量 296m3、処理水処理量0m3、薬液注入量他 9m3注3）を含む
注3）処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量（0m3）を含む。
注4）設備の出口積算流量計を基に算出

滞留水の貯蔵状況の推移（長期グラフ）



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク）

②：1～4号機タンク貯蔵量

（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等〕＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）

※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

＊1：水位計0%以上の水量

＊2：汚染水発生量の算出方法で算出 ［（建屋への地下水・雨水等流入量）+（その他移送量）+（ALPS薬液注入量）］、ALPS処理水の放出量は加味していない

＊3：深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了